



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ブラインドサッカー選手・加藤健人

5

加藤健人（以下、加藤氏）は、ブラインドサッカー選手である。高校生の頃に遺伝性の難病「レーベル病」で全盲になった。視力があった幼少の頃から楽しんでいたサッカーを引き続き練習し、パラリンピック種目のひとつであるブラインドサッカーの選手となった。ブラインドサッカーとは、視覚障がい者でもプレーできるように考案されたサッカーのことであり、視力を使わずに競技できる。加藤氏は2020年に開催される東京パラリンピックの日本代表強化指定選手として選抜されており、注目を集める選手のなかの一人である。

加藤氏は平日の昼間はアクサ生命保険株式会社（以下、アクサ生命）の社員として、アクサ生命社員に対してマッサージ施術する仕事をしている。アクサ生命は、個々の違いに価値を認める職場環境の醸成に力を入れている企業である。すべての社員が能力を発揮し、受け入れられる環境を創りだすことで「選ばれる会社」になるという戦略のもと、性別や障がい等による差別の禁止と雇用機会の均等に取り組んでいる。

10

15

20

アクサ生命の障がい者雇用

アクサ生命では、「障がい者雇用はチャリティではなく、チャンス」という標語が掲げられている。障がいの有無に関わらず、意義のある職業機会の提供と戦力としての期待という雇用方針に基づき、積極的に障がい者の採用を進めている。「障がい者雇用はチームワークの良し悪しのリトマス試験紙」であり、障がい者の力を上手く引き出せるかどうかがマネジメントの試金石とみなされている。

アクサ生命の障がい者雇用のきっかけは、実雇用率が法定雇用率を下回っていたことにある。2009年3月当時、法定雇用率1.8%に対し、実雇用率が約1%であり、生命保険業界の中で最下位レベル

25

30

本ケースは、2014年から2018年にかけて実施した加藤氏へのインタビュー、および、第22回職業リハビリテーション研究・実践発表会（2014年12月2日、東京）、障がい者雇用実践セミナー～会社を元気にする戦略的CSR～（2015年4月15日、東京）の講演内容をもとに作成された。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

Copyright ©守屋 剛（2019年1月作成）

ルであった。それに対して当時の社長が「こんな状況ではだめだ」と発言したことがきっかけとなり、方針を大きく転換し雇用を進めるようになった（表1）。その結果、2014年12月の時点で117名（肢体不自由41%、聴覚障がい36%、精神障がい11%、内部障がい8%、視覚障がい4%）の障がい者を雇用している。

表1 アクサ生命の障がい者雇用方針の転換

	2009年以前	新方針（2010年以降）
理念	● 法令順守	● チャリティではなくチャンス ● 企業価値向上
雇用の場	● 特定部門 ● 軽作業	● 全部門 ● 全国のある職種
雇用スタイル	● 特定の障がい者に限定 ● 分離、隔離	● 能力にフォーカス ● ジョブマッチング ● 多様な障がいへの合理的配慮 ● インクルージョン
成果	● 障がい者雇用率向上	● 社員満足度向上

特例子会社を設立して障がい者雇用を行う方法もあったが、ダイバーシティ・アンド・インクルージョンを理念としていたため、障がい者を一か所に集めるのではなく、各部署へ配置して健常者との同化を図った。その際、障がい者を「能力が欠けた人」ではなく、「異なる能力を有する人材」と見て会社や社会に貢献するチャンスを提供することを目指した。

アクサ生命が障がい者雇用に成功した理由は受け入れ側の認識をうまく変えたことにある。具体的には、以下のような意識改革を行ったことが挙げられる。

- 障がい者雇用をチャリティではなく、企業価値向上、ビジネスチャンスにつながると認識した
- 障がい者の能力（できること）にフォーカスをあて、マッチする仕事をえらんだ
- 多様な障がいへの配慮、インクルージョン（チームの一員としての自覚）のサポートを行った
- 全国のオフィスで、全部門のある職種に障がい者を配置した

その結果、以下のような成果が得られた。

- 健常者社員のモラル・意識改善

全社員の満足度向上、職場の一員として受け入れられているという感覚の高まり、出産・育児に対する配慮の高まり等への波及効果があつた。

5

- 業務改善

例えば、Excel が得意な聴覚障がい者が高い集中力を發揮し、手つかずだった見込顧客情報の整理を実施し、営業成績が 10% 向上したという事例があつた。

10

- 障がい者への偏見解消

社員による障がい者への偏見が解消された。

雇用を開始した当初は社内に反対が多かったものの、実際に部内に障がい者が入ると「仕事ができる」と理解され、良い面も見るようになったという。また、受け入れ推進に対する表彰等の社内ブランディングにより、障がい者雇用に対する良いイメージが醸成された。現在では「障がい者を活かせるマネージャーが良いマネージャーである」と言われるようになっている。アクサ生命はブラインドサッカーの普及・認知向上活動を支援している。

15

ブラインドサッカーと仕事の両立

20

加藤氏はブラインドサッカー B1 クラス日本代表強化指定選手であり、2015 年 5 月 10 日～17 日に開催されたパラリンピック予選へも出場した。高校 3 年生のときに遺伝性の病により視力を失い、自分の将来に対して絶望を感じたが、両親から薦められたブラインドサッカーを通じて再び希望を取り戻すことができたという。大学時代にはあんまマッサージ指圧師・鍼灸師の資格を取得し、現在はアクサ生命でマッサージ師の仕事をしながらブラインドサッカー選手としてプレーしている。

25

加藤氏はアクサ生命で働く前、他の会社でもマッサージ業務を行っていた。しかし、そこでは他の人とのコミュニケーションがほとんどなく、ただ会社に来てマッサージをするだけの毎日だったという。加藤氏が転職した理由はそのような無味乾燥な日々が続いたためであり、障がい者社員が定着するためには「『必要性』を感じることが大事だ」と語っている。

30

視覚障がい者のためのパソコンやスマートフォンのサポート機能等、障がい者のアクセシビリティを向上させる技術が発展してきている。しかしながら、視覚障がい者の働く場が拡大しているとはいえない。

sample

sample

sample

sample

sample

のことに対して、「視覚障がい者＝マッサージ師というイメージが世の中にできあがっていないか。障がいを持っているからといって職種が制限されることはおかしいのではないか」と加藤氏は話している。

さらに、加藤氏はこうも語っている。「アクサ生命の社員の方々がブラインドサッカーの試合を応援しにきてくれたり、飲みに行ったりするのが楽しいです。しかし、一方で眼が見えないせいでマッサージという仕事しかないことが悔しい。営業とかマーケティングとかもつといろいろな仕事がしてみたい」と。全盲の視覚障がい者にとって、健常者と同じ土俵で様々な活躍の場を獲得することはまだまだ難しいようである。

10

障がい者雇用への問題提起

15

加藤氏はアクサ生命に入社後、社員の福利厚生施設リラクサ（マッサージルーム）を立ち上げ、

開設以来セラピストとして社員の健康増進をサポートしてきた。現在は、アクサ生命の広報部に所属し（2019年1月現在）、ダイバーシティ＆インクルージョンのアンバサダーとして社内外への広報活動を担当しており、「2020年の東京オリンピック・パラリンピックへ向け高まっている関心が、そこで終わってしまわないようにすることが大事だ」と語っている。

20

また、これまでの半生を振り返り、つぎのようにも語っている。「私は中途で高校3年生のときに失明した。当時は障がい者への偏見も持っていた。しかし、見えていたときにやっていたサッカーを見えなくなつてもやりたいと思い、やり続けた。現在はあんまマッサージ指圧師・鍼灸師の資格を取り、マッサージをやっている。昔は、マッサージは他の人でもできることと思っていたが、今は自分がやれることはなにかを考えるようになった」と。

障がいがあるにもかかわらず、なぜそのようにポジティブになれるのか、との問い合わせに対して、「アクサ生命では障がい者をサポートしてくれるし、自分が必要とされていることを感じられる。だからポジティブになれる」と答えている。

25

さらに、障がい者雇用に関して、「視覚障害者＝マッサージというイメージはないか。今思うと、自分自身でも何故マッサージなのだと疑問に思う。だから、障がい者＝職種の制限というのはおかしいと思う。会社のなかで、障がい者が健常者から一緒に飲みに行こうと誘われたことがないのは如何なものか？」と問題提起している。

30

プロフィール

加藤 健人 (かとう けんと)

1985年10月24日生まれ

福島県出身

- 小学校3年でサッカーを始める
- 高校3年時に発症したレーベル病という遺伝性疾患によって視力が徐々に低下
- 19歳でブラインドサッカーと出会う
- 筑波技術短期大学へ進学
- 2007年からブラインドサッカー日本代表入り
- 現在、埼玉T.Wingsに所属しながら、アクサ生命保険に勤務

ブラインドサッカーにおける主な業績

2004年 関東リーグ新人賞

2014年 インチョン2014アジアパラ競技大会（韓国）銀メダル

2014年 IBSA世界選手権（東京）6位

2015年 IBSAソウルワールドゲームス（韓国）5位

2015年 IBSAアジア選手権（東京）4位

2017年 IBSAアジア選手権（マレーシア）5位

2017年 日本選手権2位

(2018年4月現在)



写真 ブラインドサッカーをプレーする加藤氏（本人提供）

sample

sample

sample

sample

sam

不許複製

慶應義塾大学ビジネス・スクール

共立 2019.2 PDF